

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート【結果】

学校名（三重県立宇治山田商業高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		校訓「健康明朗 自律協同 誠実勤勉」のもと、 人生の基礎となる力（「志」と「専門性」）を育む学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自他を尊重するとともに、規範意識を大切にする人間性豊かな生き方を目指す生徒 ○進路実現に向けて主体的・創造的・積極的に挑戦する活力ある姿勢や態度を大切にする生徒 ○探究的な学習、地域や国際交流活動等を通して「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「地域への貢献力」等の能力を備えている生徒
	ありたい 教職員像	○法令・法規を遵守し、信頼ある教育活動を展開する教職員 ○目指す学校像の実現に向け、生徒の多様な力を伸長するため、絶えざる自己改革に努力を惜しまない教職員 ○生徒が減少する南勢地域において「山商ブランド」の更なる特色化に向け、情報共有と相互支援を行う教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 自己実現できる進路指導(就職・進学)。学習、部活動ともに充実した学校生活 〈保護者〉 安心・安全な学校。子どもの進路希望(就職・進学)実現 部活動の充実と、きめ細やかな生徒指導 〈地域〉 山商で身に付けた力を活かして地域社会に貢献する生徒と「山商ブランド」の維持	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈家庭〉 進路状況など学校情報の提供 〈中学校〉 生徒の志望に係わる学校情報の提供 〈地域社会〉 地域創生へ向けた活動や地元での就職の推進	〈家庭〉 協働できる体制の確立 〈中学校〉 体験入学や英語セミナーを通じた交流の推進 〈地域社会〉 地元事業所からの求人の継続
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍において制約のあるなか、様々な対策及び工夫を教職員が行い教育活動を止めることなく実施してきたことで、生徒は例年と同様の学びを得ることができた。</li> <li>・ コロナ対策で得られたオンライン研修などの取組を、今後もさらに発展させて実施することは、今後の社会でリーダーとして活躍していく生徒には必要である。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文武両道の校是のもと、コロナ禍における教育活動を定着させるためにICTによる教育活動を積極的に推進し、生徒が充実した高校生活が送れるように取り組む必要がある。</li> <li>○ 文部科学省事業「グローバル型」最終年度として、SDGsの視点を持った地域リーダー育成に向けて地域連携した教育活動や国際交流活動に取り組み、次年度以降も持続可能な教育活動となるよう計画的に実施する必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少子化における学級数減の中での3学科の魅力化に向けて再確認し、開かれた学校づくりを実現するため広報活動の充実を図る必要がある。</li> <li>○ 地域に根差した「信頼される学校」として、引き続き、教職員が法令遵守のもとで生徒・保護者等関係者の声に耳を傾けながら、風通しの良い学校に向けて取り組む必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の自主性、主体性、創造性を育み、積極的に自己を生かしていくため、部活動振興を含め、文武両道を推進し、人間性豊かで活力に満ちた学校生活の確立に努める。</li> <li>○ 地域に開かれた学校づくりをとおり、キャリア教育の更なる充実を図るとともに、就職及び進学の実現に向け支援し、地域社会の発展に貢献する人材を輩出する商業高校を目指す。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絶えざる自己変革（「学校力」・「教師力」・「生徒の人間力」の強化）を行うため、全教職員が授業公開を行うとともに、多様な学習成果の評価手法について組織的に研究を深め、授業改善を進める。</li> <li>○ ICT教育を推進して効果的な教育活動を実現するとともに、総勤務時間の削減に努める。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業時間の確保と授業の質的向上に努め、適正な行事の時間を確保することで生徒・保護者の満足度を高める。</li> <li>【活動指標】</li> <li>・ 各分掌、各学年等の年間計画を総合的に検証する。</li> <li>・ 学習指導要領改訂を踏まえた教育課程を検討する。</li> <li>【成果指標】</li> <li>・ 生徒アンケート等による成果と課題の検証 年2回</li> <li>・ AiGROW 結果と生徒アンケートとのクロス分析 年2回（「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「地域への貢献力」等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校魅力化評価システム（10月）</li> <li>・ 学校満足度調査（2月）</li> <li>・ 3回実施（7, 10, 12月）</li> </ul>	※
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業内容の充実を図り、生徒の学習意欲や学力の向上、進路実現に努める。</li> <li>○ 各教科の学習到達目標の作成や評価手法の充実・改善を図り、指導と評価の一体化に取り組む。</li> <li>○ 生徒の学習・生活状況の実態を把握するための調査を実施し、生徒理解に生かす。</li> <li>○ オンライン教育や、授業におけるICTの利活用による</li> </ul>		◎

<p>学習指導</p>	<p>効果的な学習指導に努める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の授業理解度を把握するため、各教科の「つきたい力」に沿った調査方法を検討し調査を実施</li> <li>オンライン教育を推進し、「学びの継続」に取り組む</li> <li>パフォーマンス課題とパフォーマンス評価の改善・充実</li> <li>年間授業計画（シラバス）にパフォーマンス評価を記載</li> <li>日本商工会議所簿記検定2級、基本情報処理試験に挑戦</li> <li>英語セミナーを実施し、英語運用能力の向上を図り、英語の上級検定取得に挑戦</li> <li>個々の生徒の希望と学びの進度に合わせた補習授業を適宜実施し、幅広い学力層に対応</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <table border="0"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>考査発表期間中の学習時間</li> <li>ICTを活用した学習活動の実施</li> <li>「日商簿記検定2級」合格</li> <li>「情報処理国家資格」合格</li> <li>CEFR A2 中程度～B1 程度の検定取得 （「実用英検2級」及び「実用英検準1級」、「TOEIC L&amp;R 730点以上」、 「GTEC（アセスメント版含む）840点以上」等）</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>20時間以上／週</li> <li>全教員1回以上</li> <li>100名以上</li> <li>25名以上</li> <li>30名以上</li> </ul> </td> </tr> </table> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査発表期間中の学習時間</li> <li>ICTを活用した学習活動の実施</li> <li>「日商簿記検定2級」合格</li> <li>「情報処理国家資格」合格</li> <li>CEFR A2 中程度～B1 程度の検定取得 （「実用英検2級」及び「実用英検準1級」、「TOEIC L&amp;R 730点以上」、 「GTEC（アセスメント版含む）840点以上」等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20時間以上／週</li> <li>全教員1回以上</li> <li>100名以上</li> <li>25名以上</li> <li>30名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>25時間／週</li> <li>1回以上実施</li> <li>86名</li> <li>18名 (基情15応用3)</li> <li>36名 (2級34 準1級2)</li> <li>GTEC840以上 35)</li> </ul>	<p>◎</p> <p>◎</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>考査発表期間中の学習時間</li> <li>ICTを活用した学習活動の実施</li> <li>「日商簿記検定2級」合格</li> <li>「情報処理国家資格」合格</li> <li>CEFR A2 中程度～B1 程度の検定取得 （「実用英検2級」及び「実用英検準1級」、「TOEIC L&amp;R 730点以上」、 「GTEC（アセスメント版含む）840点以上」等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20時間以上／週</li> <li>全教員1回以上</li> <li>100名以上</li> <li>25名以上</li> <li>30名以上</li> </ul>				
<p>キャリア教育</p>	<p>○ 3年間の系統的なキャリア教育（1学年・高校生活を考える、2学年・高校生活の充実に向けて、3学年・高校生活の完成に向けて）を通じて、職業観・勤労観、主体性、挑戦する心、コミュニケーション力等を育成する。</p> <p>○ 個々の生徒の適性に応じた進路保障に努める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に「進路だより」を発行しWEBページで公開する。</li> <li>年間8回以上の進路講話（1年生2回、2年生3回、3年生3回）を体系的に実施する。</li> <li>全教職員による延べ200本以上の全職員による小論文指導を実施する。（図書館とも連携）</li> <li>1年生に企業見学（11月）と地元企業説明会（2月）を実施する。</li> <li>2年生にジョブシャドウイング・大学見学（11月）を実施する。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <table border="0"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学または難関私立大学合格のべ数</li> <li>民間企業等就職内定率</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>20名以上</li> <li>100%</li> </ul> </td> </tr> </table> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学または難関私立大学合格のべ数</li> <li>民間企業等就職内定率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20名以上</li> <li>100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行27号</li> <li>3年生3回実施 2年生3回実施 1年生2回実施</li> <li>159本実施</li> <li>11月,2月実施</li> <li>11月実施</li> <li>14名 (国公立6 難私立8)</li> <li>100%</li> </ul>	<p>※</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学または難関私立大学合格のべ数</li> <li>民間企業等就職内定率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20名以上</li> <li>100%</li> </ul>				



人権教育	<p>○ 「三重県人権教育基本方針」に基づいた人権教育カリキュラムを確立するとともに、それを実効あるものとするための総合的・系統的な推進体制の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学から卒業まで、3年間を通じた体系的な学習となるよう計画立案する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育カリキュラムに基づいた授業を、全学年で各学期1回以上実施する。</li> </ul>	全学年で各学期 1回以上実施	
読書指導	<p>○ 教科の学習及び特別活動に役立つ資料の充実に努め、利用を促すとともに、自由な読書の機会を保障する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒・保護者向け及び教職員向けの図書館だよりを発行する。</li> <li>・ 図書館主催のイベントを充実する。</li> <li>・ ビブリオバトルに参加し、生徒の表現活動を推進する</li> <li>・ 昨年度に続きコロナ対策を徹底し、生徒が安心して図書館を利用できる環境を提供する。</li> <li>・ 生徒の貸出履歴等個人情報に係わる情報については管理を徹底し、図書部内で意識の統一を図る。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館の貸出冊数 全体で 15,000 冊以上</li> <li>・ 教科の授業や特別活動と連携した図書館利用回数 年 100 回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9回発行</li> <li>・ 実施</li> <li>・ 生徒1名参加 (地区大会をオンラインで開催)</li> <li>・ 6,496冊</li> <li>・ 39回</li> </ul>	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度入学生より始まる一人一台端末タブレットPCの利活用の充実や、新学習指導要領に対応した授業づくりと評価手法を確立して実践する必要がある。</li> <li>・ 次年度もコロナ禍における教育活動が想定される。安全安心な活動を踏まえたうえで、より効果的な活動となるように様々な方法を検討していく必要がある。</li> <li>・ 文部科学省事業は今年度で終了となるが、学習成果を継承する意味から、SDGsをテーマとする学習や地域等と連携した学習活動を継続実施していく必要がある。</li> </ul>			

## (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 信頼される学校であるために、教職員間の規範意識および服務規律の確立に努める。</li> <li>○ 危機管理意識の高揚及び防災教育の推進に努める。</li> </ul>		◎

	<p>○ 法令・法規を遵守し、過重労働の削減に努める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校信頼向上委員会を定期的実施し、学校全体で組織的に学校信頼向上に取り組む。</li> <li>防災危機の観点から「学校メール連絡網」への加入者数の増加を図る。</li> <li>「校内ネットワーク」の積極的な活用により、教職員間の「情報の共有」に努める。</li> <li>定時退校日、部活動休養日等を設定して時間外労働を削減する。</li> <li>議題説明時間の短縮により、会議時間の効率化を図る。</li> <li>機械警備を適切に運用するため、戸締り、窓閉め、消灯などを徹底する。</li> <li>公文書管理規程に基づく適切な文書管理を行う。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>「学校メール連絡網」加入者割合</td> <td>100%</td> <td>・ 99% (生徒)</td> </tr> <tr> <td>1人当たりの月平均時間外労働</td> <td>30時間以下</td> <td>・ 15時間19分</td> </tr> <tr> <td>年360時間を超える時間外労働者数</td> <td>0人</td> <td>・ 0人</td> </tr> <tr> <td>月45時間を超える時間外労働者延べ人数</td> <td>0人</td> <td>・ 2人</td> </tr> <tr> <td>1人当たりの年間休暇取得日数</td> <td>年1日増加</td> <td>・ -0.1日</td> </tr> <tr> <td>定時退校日(月2回)できた職員の割合</td> <td>90%以上</td> <td>・ 94.5%</td> </tr> <tr> <td>部活動休養日(週1回)できた部活の割合</td> <td>95%以上</td> <td>・ 100%</td> </tr> <tr> <td>放課後60分以内に終了した会議の割合</td> <td>85%以上</td> <td>・ 83.7% (36/43)</td> </tr> <tr> <td>校舎施錠不備(委託業者施錠)回数</td> <td>年3回以内</td> <td>・ 8回</td> </tr> <tr> <td>公文書の保存状況確認回数</td> <td>年2回</td> <td>・ 2回</td> </tr> </table>	「学校メール連絡網」加入者割合	100%	・ 99% (生徒)	1人当たりの月平均時間外労働	30時間以下	・ 15時間19分	年360時間を超える時間外労働者数	0人	・ 0人	月45時間を超える時間外労働者延べ人数	0人	・ 2人	1人当たりの年間休暇取得日数	年1日増加	・ -0.1日	定時退校日(月2回)できた職員の割合	90%以上	・ 94.5%	部活動休養日(週1回)できた部活の割合	95%以上	・ 100%	放課後60分以内に終了した会議の割合	85%以上	・ 83.7% (36/43)	校舎施錠不備(委託業者施錠)回数	年3回以内	・ 8回	公文書の保存状況確認回数	年2回	・ 2回		<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
「学校メール連絡網」加入者割合	100%	・ 99% (生徒)																															
1人当たりの月平均時間外労働	30時間以下	・ 15時間19分																															
年360時間を超える時間外労働者数	0人	・ 0人																															
月45時間を超える時間外労働者延べ人数	0人	・ 2人																															
1人当たりの年間休暇取得日数	年1日増加	・ -0.1日																															
定時退校日(月2回)できた職員の割合	90%以上	・ 94.5%																															
部活動休養日(週1回)できた部活の割合	95%以上	・ 100%																															
放課後60分以内に終了した会議の割合	85%以上	・ 83.7% (36/43)																															
校舎施錠不備(委託業者施錠)回数	年3回以内	・ 8回																															
公文書の保存状況確認回数	年2回	・ 2回																															
<p>情報提供</p>	<p>○ 開かれた学校づくりを実現するため、特色・魅力ある教育の情報発信(広報活動)の充実を図る。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業、公開講座を開催する。</li> <li>報道機関への資料提供、地域・中学校への学校Webページ等を活用した情報発信に努め、受検生の増加を図る。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>公開授業</td> <td>年2回以上</td> <td>・ 1回(6月中止)</td> </tr> <tr> <td>学校Webページの充実・更新</td> <td>年140回以上</td> <td>・ 163回</td> </tr> <tr> <td>新聞記事等への掲載回数</td> <td>年20回以上</td> <td>・ 30回</td> </tr> <tr> <td>公開授業・公開講座参加者アンケート満足度</td> <td>85%以上</td> <td>・ 91%</td> </tr> </table>	公開授業	年2回以上	・ 1回(6月中止)	学校Webページの充実・更新	年140回以上	・ 163回	新聞記事等への掲載回数	年20回以上	・ 30回	公開授業・公開講座参加者アンケート満足度	85%以上	・ 91%		<p>◎</p>																		
公開授業	年2回以上	・ 1回(6月中止)																															
学校Webページの充実・更新	年140回以上	・ 163回																															
新聞記事等への掲載回数	年20回以上	・ 30回																															
公開授業・公開講座参加者アンケート満足度	85%以上	・ 91%																															
<p>改善課題</p>																																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革における総勤務時間の縮減においては、会議時間の短縮は改善してはいるものの、部活動等さらなる工夫や内容の精選が必要である。</li> <li>クラス減にともなう教員数減のため、校務分掌や部活動の在り方を検討していく必要がある。</li> </ul>																																	

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後も外部機関等の協力を得ながら学習活動を進めていく必要がある。</li><li>・授業内容や部活動、進路実績等において高い評価を得ることができている。</li><li>・新学習指導要領による評価手法について引き続き検討していく必要がある。</li><li>・働き方改革における総勤務時間の縮減について更なる工夫と精選が必要である。</li></ul>
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・3年間の文部科学省事業の成果を踏まえ、持続可能な社会を目指すSDGsをテーマとした学習活動を継続実施する。またコンソーシアムで培ったノウハウを生かし、地域有識者の協力や関連機関等と連携して実践的な教育活動を更に充実させる。</li><li>・教員一人ひとりがICTを活用した授業展開を継続するとともに、1人1台端末の効果的な利用を意識して技術知識の向上を図る。</li></ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・働き方改革における総勤務時間の縮減については、引き続き業務内容の見直しや会議の精査をして改善を図るとともに、部活動内容を精選していく。</li><li>・クラス減による教員数減への対応として、校務分掌や部活動の在り方を見直したが、今後も一人ひとりの生徒の目標達成に向けて改善していく。</li></ul>